

第4次交野市総合計画策定の作業基本方針

有識者による「新しい総合計画のあり方懇話会」の提言を受けて、平成20年7月1日に「第4次交野市総合計画策定作業基本方針」を策定しました。

第4次交野市総合計画策定の14のポイント	
ポイント 1	<b>夢やビジョンを共有する新しい時代の総合計画</b> このまちがどうなるか、ではなく、どうありたいかという夢を共有する。
ポイント 2	<b>動態的プログラムを明示し、成長し続ける総合計画</b> 社会が変化することを前提に、プロセスを重視した変化、成長する計画に。
ポイント 3	<b>実施主体の多様性、広域性を活用した自主自立の方針</b> すべてを自ら成し遂げるのではなく、多様な連携のもとに自立を目指す。
ポイント 4	<b>コミュニケーション、情報を鍵に思い切った挑戦</b> 小さな町であるからこそ成し遂げられるコミュニケーション主体の連携を。
ポイント 5	<b>共治のデザインに支えられた自治経営システムの構築へ</b> 総合計画策定過程を協働、共治への試行の場とし、交野らしい共治を描く。
ポイント 6	<b>総合計画とマニフェストの関係性を整理</b> 市長公約と市民共有計画としての総合計画を将来にわたって整合させる。
ポイント 7	<b>暮らしの原点に戻り、より長く共有できる将来像</b> まちの夢は、一人ひとりの暮らしの夢の延長に描く。
ポイント 8	<b>方向性を明確に浮かび上がらせる基本構想</b> 暮らしの夢と、行政施策との関係を明確にし、方向性を明らかにする。
ポイント 9	<b>多様な手法により、多くの市民がかかわる作業に</b> 多様な手法、機会を用いて、できるだけ幅広い市民の参画の下に作業する。
ポイント 10	<b>自発的参加と協働により創造性高く作業、かつ人材を発掘</b> 公募を主として、自らの積極的な参画による活動的、創造的な作業を展開
ポイント 11	<b>多様な個人の心の中に戻して、まちのイメージを共有</b> 一人ひとりの暮らしの夢をしっかりと捉える。
ポイント 12	<b>次代を担う職員が連携して動かすきっかけとなる庁内体制</b> 庁内連携のあり方を試行しながら作業する。
ポイント 13	<b>大学との包括連携による多様な協働の実践</b> 大学の高度な知と教育の場としてのまちを活用した協働の実践を試行。
ポイント 14	<b>多様な対象、目的に合わせ、自在な、使える総合計画</b> 目的や対象によって使い分けの利く、わかりやすい総合計画に。

摂南大学との基本協定

平成20年4月：第4次交野市総合計画策定作業支援業務にかかる基本協定を締結

**趣旨** 交野市は、第4次交野市総合計画策定作業の主体としての交野市民並びに交野市職員によって総合計画の策定を担当し、摂南大学は、交野市の行う作業のための調査・研究、指導・助言、記録・成果品の調整など、作業全般にわたる支援・促進と、作業を通じた人材育成、能力向上などを担当する。摂南大学は、自らの研究、教育のための機会として、教員、学生の参画による総合的な作業を可能とする。

- 概要**
- ◆ 庁内プロジェクトチームの運営支援
  - ◆ 本市職員が行う業務への助言等の支援
  - ◆ 総合計画審議会の運営支援
  - ◆ 基本構想、基本計画案の作成支援
  - ◆ まちづくり課題に関する調査研究
  - ◆ 将来予測、政策目標等の設定支援
  - ◆ 市民参加支援
  - ◆ 公開シンポジウムの企画、開催支援

基本構想策定までの取り組み概要

